

2006年7月13日

# 2006年8月期第3四半期業績、 及び通期業績見通し

**松下 正**

---

株式会社ファーストリテイリング  
取締役

取締役の松下です。

2006年8月期第3四半期の業績と通期見通しについて、ご説明させていただきます。

## 【連結】 第3四半期 PL 増収増益

2

1Q～3Q (9ヶ月累計) 売上高: 3,461億円 (前年同期比+17.4%)  
 経常利益: 641億円 (前年同期比+25.4%)

単位: 億円

	1Q～3Q (05/9～06/5)			3Q (06/3～06/5)		
	実績	前年実績	前年同期比	実績	前年実績	前年同期比
売上高 (売上比)	3,461 100.0%	2,948 100.0%	+17.4%	1,074 100.0%	929 100.0%	+15.6%
売上総利益 (売上比)	1,651 47.7%	1,328 45.1%	+24.3% (+2.7p)	526 49.0%	429 46.2%	+22.7% (+2.8p)
販管費 (売上比)	1,027 29.7%	832 28.2%	+23.4% (+1.4p)	357 33.3%	287 30.9%	+24.6% (+2.4p)
営業利益 (売上比)	624 18.0%	495 16.9%	+25.9% (+1.1p)	168 15.7%	142 15.3%	+19.0% (+0.4p)
経常利益 (売上比)	641 18.5%	511 17.4%	+25.4% (+1.2p)	169 15.8%	149 16.1%	+13.7% (+0.3p)
当期利益 (売上比)	357 10.3%	271 9.2%	+31.8% (+1.1p)	91 8.5%	57 6.2%	+59.5% (+2.4p)

まず、2006年8月期 第3四半期の連結業績についてご説明します。

第3四半期までの9ヶ月間の累計では売上高は3,461億円、前年同期比17.4%増、営業利益は624億円、前年同期比25.9%増、経常利益は641億円、前年同期比25.4%増の増収増益となりました。

また第3四半期のみ3ヶ月間では、売上高は1,074億円、前年同期比15.6%増、営業利益は168億円、前年同期比19.0%増、経常利益は169億円、前年同期比13.7%増という結果であり、同じく増収増益となっております。

この第3四半期より、2006年2月に買収を完了したランジェリーブランド、プリンセス タム・タムを展開するプティ ヴィクル社、および、日本で「コントワー・デ・コトニエ」ブランドを展開するCDC ジャパンが連結対象子会社となっております。

1Q～3Q  
(9ヶ月累計)

3

## 【連結】 増収増益の要因

**売上高 3,461億円** (前年同期比 +17.4%)

国内ユニクロ事業 おもに新規出店による売上増 +203億円

連結子会社増加 ワンゾーン+103億円、ネルソンフィナンス+122億円  
プティ ヴィクル+29億円

**売上高総利益率 47.7%** (前年同期比 +2.7p)

国内ユニクロ事業の売上高総利益率の改善

ネルソン フィナンス社の新規連結

**売上高販管費率 29.7%** (前年同期比 +1.4p)

新規連結子会社増 +86億円 国内ユニクロ事業+45億円

**経常利益率 18.5%** (前年同期比 +1.2p)

まず売上高ですが、国内ユニクロ事業の増収が203億円でした。

さらに、今期から通年で連結を開始したワンゾーン、「コントワー・デ・コトニエ」を展開するネルソン フィナンス社、第3四半期から連結対象となったプティヴィクル社などグループ会社の増収を加え、連結売上高は前年同期比17.4%の増収となりました。

売上高総利益率は47.7%と前年同期比で2.7ポイント改善いたしました。これは、主に国内ユニクロ事業の売上高総利益率が改善したこと、利益率の高いネルソンフィナンス社が連結に加わったことによります。

販管費は、前年同期比で194億円増えております。連結対象会社が増えたことによるものが86億円、国内ユニクロ事業の店舗増などによる経費増が45億円となっております。

その結果、経常利益率は18.5%と、前年同期比で1.2ポイント改善いたしました。

# 【国内ユニクロ】 2006年8月期第3四半期

## 増収増益を達成

単位：億円

	1Q～3Q (05/9～06/5)			3Q (06/3～06/5)		
	実績 (社内管理数値)	前年実績 (旧FR単体)	前年同期比	実績 (社内管理数値)	前年実績 (旧FR単体)	前年同期比
<b>売上高</b> (売上比)	<b>3,067</b> 100.0%	2,862 100.0%	+ 7.2%	<b>919</b> 100.0%	864 100.0%	+ 6.4%
<b>売上総利益</b> (売上比)	<b>1,439</b> 46.9%	1,289 45.0%	+ 11.6% (+ 1.9p)	<b>440</b> 47.9%	400 46.3%	+ 10.1% (+ 1.6p)
<b>販管費</b> (売上比)	<b>841</b> 27.4%	795 27.8%	+ 5.8% (- 0.4p)	<b>281</b> 30.6%	260 30.1%	+ 8.0% (+ 0.5p)
<b>営業利益</b> (売上比)	<b>598</b> 19.5%	494 17.3%	+ 21.1% (+ 2.2p)	<b>159</b> 17.3%	139 16.2%	+ 14.1% (+ 1.1p)

社内管理数値は、旧(株)ファーストリテイリング単体の2ヶ月間の実績(2005年9月1日～2005年10月31日)と、持株会社である(株)ファーストリテイリングと(株)ユニクロの7ヶ月間の実績(2005年11月1日～2006年5月31日)を合算したもものから、(株)ファーストリテイリングの商業施設事業の収入および経費を除いたものです。旧(株)ファーストリテイリング事業と比較対照するためのご参考数値です。

次に国内ユニクロ事業について、ご説明いたします。

2005年11月1日より持株会社体制に移行しておりますため、国内ユニクロ事業の数値につきましては社内管理数値を表示しております。

こちらのスライドにありますように、3月から5月の第3四半期3ヶ月間の国内ユニクロ事業の売上高は919億円、前年同期比6.4%増、営業利益では159億円、前年同期比14.1%増の増収増益を達成いたしました。

## 3Q 【国内ユニクロ】 売上高の状況

**売上高： 919億円 前年同期比+6.4%**

ユニクロ直営店 前年同期比22店舗増 (5月末690店舗)

既存店売上高 前年同期比 0.6% (1Q-3Q累計 前年同期比 + 0.2%)

客数 前年同期比 3.3%

- ・ 天候不順の影響で4月から客数は前年割れ

客単価 前年同期比 + 2.7%

- ・ 平均1品単価上昇傾向が続く
- ・ 春物の値引き幅が縮小

既存店 前年比増減率	2006年8月期					
	上期計	3月	4月	5月	3Q計	6月
売上高	+0.5%	+9.2%	9.3%	+1.3%	0.6%	2.2%
客数	1.4%	+7.3%	10.0%	3.9%	3.3%	5.4%
客単価	+2.0%	+1.8%	+0.8%	+5.4%	+2.7%	+3.4%

F C店 17店舗、小型専門店8店舗 (BODY by UNIQLO 5店舗 ユニクロキッズ 3店舗)を除く

国内ユニクロ事業の第3四半期増収の主な要因は、店舗数が前年同期比で22店舗増加したことです。

3ヶ月間の直営店の出退店の実績は、出店30店舗、退店17店舗、純増13店舗であり、期末の店舗数は690店舗となりました。

第3四半期の既存店売上高は、前年同期比0.6%の減収となり、計画を下回りました。

このうち、客数がマイナス3.3%、客単価がプラス2.7%ですが、客数の減少は、4月の気温が低かったこと、5月の連休以降の天候が不順だったことによる影響が大きいのと考えております。

客単価は前年同期比で2.7%上昇しておりますが、この理由としては一品単価が上昇する傾向が続いていることがあげられます。

一品単価は、デザイン性や素材の品質を高めた商品や、ジャケットなど単価の高い商品の売れ行きが好調であることに加え、春ものの在庫処分による値引き幅が去年に比べて小さかったことから、上昇傾向が続いています。

## 3Q 【国内ユニクロ】 利益指標

**売上高総利益率 47.9%** (前年同期比 + 1.6p)

春物在庫の値引きが昨年に比べて減少

**売上高販管費率 30.6%** (前年同期比 + 0.5p)

賃借料率 +0.5ポイント: 都心ビルイン型・ショッピングセンターへの  
出店に伴う賃借料増

人件費率 +0.2ポイント: 採用の拡大による求人費・人件費増など

広告宣伝費率 0.1ポイント: 対売上高比率で削減

**営業利益率 17.3%** (前年同期比 + 1.1p)

第3四半期の3ヶ月間の売上高は、社内計画を若干下回った結果となっておりますが、売上高総利益率は前年同期比で1.6ポイント改善し、計画比でも約1ポイント上回る事ができました。

この主な要因としては、春物在庫処分による値引きが減少したことがあげられます。

次に、国内ユニクロの販管費ですが、前年同期比、約20億円増加しており、対売上高比率でも0.5ポイント悪化した結果となっています。

販管費比率が悪化した要因としては、都心ビルイン型やショッピングセンター型の店舗が増えたことによる賃借料の増加や、採用の拡大による求人費・人件費増があげられます。

ただし、広告宣伝費については対売上高比率で削減することができました。経費管理を強化することにより、この四半期の経費については予算を数億円下回っております。

その結果、営業利益ベースでは社内計画値を上回ることができました。

# 1Q～3Q 【連結】第3四半期 連結対象会社PL

(9ヶ月累計)

単位:億円

	05/8期 1～3Q 連結	2006年8月期					リンク・セオリー・ HD 05/9～06/5
		1～3Q 連結	ワンゾーン	FRフランス <sup>2</sup>	CDC ジャパン	アスベジ・ ジャパン	
			05/9～06/5	05/9～06/5	05/9～06/5	05/9～06/5	
売上高	2,948	3,461	159.8	152.6	1.0	6.4	[持分法適用]
営業利益	495	624	4.6	42.5	2.3	0.8	
経常利益	511	641	4.3	39.2	2.3	0.8	5.0 <sup>3</sup>
特別損益	31	9	1.2	0.0	0.0	0.1	
当期純利益	271	357	3.5	24.7	2.3	1.0	

- 2005年11月1日より持株会社体制に移行した結果、各子会社から持株会社へロイヤリティ等が支払われております。当該ロイヤリティは2006年8月期第3四半期の業績のうち2005年11月以降に発生しています。
- フランス事業の持株会社であるFRフランスの数値には、ネルソン フィナンス社、「プリンセス タム・タム」を展開するプティ ヴィクル社などが含まれています。
- 営業外収益として、(株)リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資利益(05/9～06/5)」5.0億円が計上されています。
- 連結調整勘定にて、プティ ヴィクル社株式取得に伴う連結調整勘定償却 1.8億円を計上しています。

次に、主な連結対象会社の業績についてコメントいたします。

まずワンゾーンですが、売上高が計画を下回り、営業損失は累計で4.6億円となりました。これは既存店での客数・客単価が伸び悩み、売上が計画を下回ったことによるものです。商品や売場の改革をおこなったものの、十分に成果をあげることができませんでした。

次にフランス事業の持株会社であるFRフランスの業績ですが、こちらは「コントワー・デ・コトニエ」ブランドを展開するネルソン フィナンス社と、2006年2月に連結子会社となりましたフランスのプティ ヴィクル社などの数値を含んでおります。

ネルソンフィナンス社の業績は、第3四半期も春夏コレクションが成功したことから、引き続き好調であり、第3四半期累計では売上高、利益とも大幅な増収増益となっております。

また、新たに連結されたプティ ヴィクル社の業績も好調で、第3四半期3ヶ月間で売上高29億円、営業利益4.7億円を計上しております。

なお、日本で「コントワー・デ・コトニエ」ブランドの展開を開始したCDCジャパンは、2月に銀座で1号店を出店し、合計5店舗出店いたしました。まだ日本市場での知名度が低いため、第3四半期の営業損失は累計で2.3億円となっております。

なお、持分法適用関連会社である、リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資利益」は5億円となりました。

1Q ~ 3Q **[連結] 第3四半期 海外ユニクロ事業** 8  
 (9ヶ月累計)

単位：億円

	UNIQLO (U.K.)		FRJS		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	[英国]	売上比	[中国]	売上比	[米国]	売上比	[韓国]	売上比	[香港]	売上比
連結対象期間	05/9 ~ 06/5		05/7 ~ 06/3		05/9 ~ 06/5		05/9 ~ 06/5		05/9 ~ 06/5	
売上高	20.0	100.0%	12.1	100.0%	5.9	100.0%	18.3	100.0%	8.9	100.0%
営業利益	1.0	-	0.1	-	6.0	-	0.4	-	1.8	20.2%
経常利益	0.8	-	0.0	-	6.1	-	0.3	-	1.9	21.3%
特別損益	0.0	-	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%	0.0	0.0%
当期純利益	0.9	-	0.0	-	6.1	-	0.3	-	1.6	18.0%

2005年11月1日より持株会社体制に移行した結果、各子会社から持株会社へロイヤリティ等が支払われております。当該ロイヤリティは2006年8月期第3四半期の業績のうち2005年11月以降に発生しています。

続きまして、海外のユニクロ事業の業績についてご説明いたします。

英国事業の売上高は計画を上回るペースとなっており、前年比約3割の増収でしたが、4月に実施したキングストン店、リッチモンド店の改装費や、今後の拡大に対応した新規採用などの経費増で第3四半期累計では赤字となっております。

中国事業は上海の店舗を中心に売上高は好調に推移しておりますが、2005年9月にオープンした北京の2店舗の売上が計画を下回っていることから、第3四半期累計では若干の赤字となっております。北京の2店舗につきましては、状況が改善しないことから、5月までに閉店いたしました。

米国事業は、ニュージャージのモールに出店した3店舗の計画未達が続いておりますが、SOHOに出店したパイロット店舗の売上は好調な結果となっております。今年の秋にはSOHOで1000坪の旗艦店をオープンする予定で、準備を進めております。

2005年秋に進出しました韓国事業では、ソウル市内の店舗は好調が続いておりますが、この3月から5月に地方に出店した5店舗が計画未達であることから、第3四半期累計では若干の赤字となっております。

同じく秋に進出しました香港事業は好調な売上を維持しており、第3四半期累計の売上高、利益ともに計画を上回るペースで推移しております。



## 【連結】 2006年5月末 BS

単位:億円

	2005年8月末	2006年5月末	増 減
総資産	2,728	3,242	+514
流動資産	1,800	2,152	+351
固定資産	927	1,090	+162
負債	853	1,102	+249
少数株主持分	51	75	+24
株主資本	1,823	2,063	+240

次に連結のバランスシートのご説明をさせていただきます。

2005年8月末との比較では、流動資産が351億円、固定資産が162億円増えたことから、全体の総資産は3,242億円と514億円の増加となりました。

詳細については、次のスライドでご説明させていただきます。

## 【連結】BSのポイント (2005年8月末比較)

**現金・預金および有価証券 +204億円 (1,210億円 1,414億円)**

- 【国内ユニクロ】 営業キャッシュ・フローの増加など

**受取手形・売掛金の増加 +83億円 (44億円 127億円)**

- 【国内ユニクロ】 季節変動要因、入金機の導入による影響

**たな卸資産の増加 +56億円 (335億円 391億円)**

- 【国内ユニクロ】 +6億円 【新規海外ユニクロ】 +8億円 【ワンゾーン】 +18億円

- 【プティ ヴィクル社】 新規連結 +21億円

**無形固定資産の増加 +73億円 (171億円 244億円)**

- プティ ヴィクル社買収による営業権 +50億円

**有利子負債の増加 +76億円 (61億円 138億円)**

- プティ ヴィクル社買収の際のユーロ建て長期借入金 +63億円

まず、現預金及び有価証券の合計額は、8月末比204億円増加しております。これはおもに営業キャッシュ・フローの増加によるものです。

次に、受取手形及び売掛金が、8月末比83億円、前年同期比53億円増加しております。こちらは、国内ユニクロにおける季節変動要因と、店舗における「入金機」の導入による売掛金の増加によるものです。店舗での入金機の導入に伴い、店頭から警備会社に預けた売上代金を売掛金として計上しております。

たな卸資産が、8月末比では56億円増加しております。国内ユニクロは、8月末比では6億円増加していますが、対前年同期比では19億円減少しています。連結の在庫が増えた理由としては、プティ ヴィクル社、米国・韓国・香港などの新規連結対象会社の増加、ワンゾーンの在庫増加によるものです。

無形固定資産は、8月末比73億円増加しております。このうち50億円はプティ ヴィクル社取得にともなう営業権の増加です。

最後に、有利子負債が76億円増加しております。これはプティ ヴィクル社買収のためのユーロ建て長期借入金によるものです。

## 【国内ユニクロ】 2006年8月期 通期業績予想 (変更なし)

単位: 億円

	2005年8月通期 実績 (旧FR単体)	2006年8月通期 (社内管理数値)	
		予想 (4/13中間決算発表時)	前期比
<b>売上高</b> (売上比)	3,653 100.0%	3,922 100.0%	+ 7.4%
<b>売上総利益</b> (売上比)	1,625 44.5%	1,815 46.3%	+ 11.7% (+ 1.8p)
<b>販管費</b> (売上比)	1,054 28.9%	1,132 28.9%	+ 7.5% (+ 0.0p)
<b>営業利益</b> (売上比)	571 15.6%	682 17.4%	+ 19.5% (+ 1.8p)

社内管理数値は、旧(株)ファーストリテイリング単体の2ヶ月間の実績(2005年9月1日～2005年10月31日)と、持株会社である(株)ファーストリテイリングと(株)ユニクロの10ヶ月間の実績(2005年11月1日～2006年8月31日)を合算したのから、ファーストリテイリングの商業施設事業の収入および経費を除いたものです。旧ファーストリテイリング事業と比較対照するためのご参考数値です。

次に、2006年8月期の業績見通しについてご説明いたします。

国内ユニクロの通期の業績予想については、売上高で3,922億円、前期比7.4%増、営業利益は682億円、前期比19.5%増であり、変更はございません。

## 【国内ユニクロ】 2006年8月期予想 国内ユニクロ事業前提条件

12

	2005年8月期 実績			2006年8月期 予想			前期比		
	売上高	3,653 億円			3,922 億円			+ 7.4%	
既存店伸び率	+ 0.6%			+ 0.3%			0.3p		
売上高総利益率	44.5%			46.3%			+ 1.8p		
通 期	44.5%			46.5%			+ 2.0p		
上期(実績)	44.5%			46.0%			+ 1.5p		
下期(予想)	44.5%			46.0%			+ 1.5p		
出退店数(直営店)	出店	退店	純増	出店	退店	純増	出店	退店	純増
通 期	69	31	+38	76	45	+31	+7	+14	7
上期(実績)	41	14	+27	39	26	+13	2	+12	14
(店舗) 下期(予想)	28	17	+11	37	19	+18	+9	+2	+7

上記直営店の出退店数には、小型専門店(ウィメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ専門店「ユニクロ キッズ」など)は含まれていません。

第3四半期の既存店売上高は前年比マイナス0.6%であり、計画に対しても2~3ポイント下回りましたが、売上高総利益率につきましては、第3四半期では計画を1ポイント程度上回る事ができました。

第4四半期もこのトレンドが続くと予想しております。また第4四半期は、販管費も引き続きコントロールしていく計画です。

下期の店舗数は、フランチャイズ店から直営店への転換があったことから出店数は計画より2店舗増加しております。

一方、閉店数は計画より4店舗増える見込みです。

## 【連結】 2006年8月期 通期 連結対象会社別 業績予想

単位：億円

連結対象期間	連結		ワンゾーン		FRフランス <sup>2</sup> [仏国]		コントワー・デー・コトニエ ジャパン	
	売上高	売上比	売上高	売上比	売上高	売上比	売上高	売上比
05/9～06/8	4,449	100.0%	215.8	100.0%	204.5	100.0%	2.4	100.0%
売上高	4,449	100.0%	215.8	100.0%	204.5	100.0%	2.4	100.0%
営業利益	702	15.8%	6.3	-	48.8	23.9%	3.2	-
経常利益	723	16.3%	6.1	-	44.7	21.9%	3.2	-
特別損益	12.0	-	2.2	1.0%	0.3	0.1%	0.0	0.0%
当期純利益	400	9.0%	3.9	-	28.3	12.7%	3.2	-

連結対象期間	アスベジ・ジャパン		リンク・セオリー・HD		キャビン	
	売上高	売上比	売上高	売上比	売上高	売上比
05/9～06/8	7.9	100.0%	3.9	3	1.8	4
売上高	7.9	100.0%	持分法適用関連会社		持分法適用関連会社	
営業利益	1.2	-				
経常利益	1.2	-	3.9	3	1.8	4
特別損益	0.2	-				
当期純利益	1.4	-				

- 2005年11月1日より持株会社体制に移行した結果、各子会社から持株会社へロイヤリティ等が支払われております。当該ロイヤリティは2006年8月期業績のうち2005年11月以降に発生しています。
- フランス事業の持株会社FRフランスの数値には、ネルソン・フィナンス社、プティ・ヴィクル社等が含まれています。
- 営業外収益として、(株)リンク・セオリー・ホールディングスの「持分法による投資利益(05/9～06/8)」3.9億円の計上を予想しています。
- 営業外費用として、(株)キャビンの「持分法による投資損失(06/6～06/8)」1.8億円の計上を予想しています。  
〔内訳〕(株)キャビン期間損益相当 1.2億円、(株)キャビン株式取得に伴う投資差額 0.6億円
- 連結調整勘定にて、ネルソン・フィナンス社株式追加取得に伴う連結調整勘定償却 5.4億円と、プティ・ヴィクル社株式取得に伴う連結調整勘定償却 3.7億円を予想しています。

次に、連結対象会社のうち、予想数字を変更したおもな会社についてご説明いたします。

ワンゾーンですが、売上高予想は240億円から215億円に、営業損益は0.2億円の黒字から6.3億円の赤字に修正いたしました。

今後のワンゾーンの事業改善につきましては後ほどご説明いたします。

フランス事業の持ち株会社であるFRフランスの売上高は好調な業績を反映して184億円から204億円へ、営業利益は41億円から48億円へ上方修正いたしました。このうち、ネルソン・フィナンス社の売上は140億円から154億円に修正し、営業利益は37億円から44億円に変更しております。また、プティ・ヴィクル社の売上高予想は43億円から50億円へ、営業利益は3億円から8億円へ修正しております。

コントワー・デー・コトニエ・ジャパンは、足元の業績をふまえ、前回の予想数値から売上高と損益予想を下方修正しております。

## 【連結】2006年8月期 通期 海外ユニクロ事業子会社別 業績予想

単位：億円

	UNIQLO(U.K.)		FRJS		UNIQLO USA		FRL Korea		UNIQLO H.K.	
	[英国]	売上比	[中国]	売上比	[米国]	売上比	[韓国]	売上比	[香港]	売上比
連結対象期間	05/9～06/8		05/7～06/6		05/9～06/8		05/9～06/8		05/9～06/8	
売上高	25.4	100.0%	14.9	100.0%	9.0	100.0%	26.2	100.0%	11.0	100.0%
営業利益	1.0	-	0.1	-	10.0	-	1.4	-	2.0	18.2%
経常利益	1.1	-	0.2	-	10.0	-	1.3	-	2.0	14.9%
特別損益	0.0	0.0%	0.7	-	0.0	-	0.0	0.0%	0.0	14.9%
当期純利益	1.1	-	0.8	-	10.0	-	1.3	-	1.7	12.3%

2005年11月1日より持株会社体制に移行した結果、各子会社から持株会社へロイヤリティ等が支払われております。  
当該ロイヤリティは2006年8月期業績のうち2005年11月以降に発生しています。

海外ユニクロ事業では、都心部の旗艦店を中心に、ブランド戦略をすすめていく計画です。

米国では10月にオープンを予定しているSOHO旗艦店を成功させるため、全社をあげてとりくんでおります。旗艦店は、ロンドン、上海でも出店を検討しております。

英国・中国・韓国は、第3四半期の業績をふまえ、営業利益を下方修正いたしました。

一方、好調な香港事業については通期の売上高、利益を上方修正しております。

## 【連結】 2006年8月期 通期業績予想 (変更なし)

単位:億円

	2005年8月期 実績	2006年8月期	
		予想 (4/13中間決算発表時)	前期比
<b>売上高</b> (売上比)	3,839 100.0%	<b>4,449</b> 100.0%	+ 15.9%
<b>売上総利益</b> (売上比)	1,702 44.3%	<b>2,087</b> 46.9%	+ 22.6% (+ 2.6p)
<b>販管費</b> (売上比)	1,135 29.6%	<b>1,383</b> 31.1%	+ 21.8% (+ 1.5p)
<b>営業利益</b> (売上比)	566 14.7%	<b>702</b> 15.8%	+ 24.0% (+ 1.0p)
<b>経常利益</b> (売上比)	586 15.2%	<b>723</b> 16.3%	+ 23.4% (+ 1.0p)
<b>特別損益</b> (売上比)	5 0.2%	<b>12</b> 0.3%	( - ) ( - )
<b>当期純利益</b> (売上比)	338 8.8%	<b>400</b> 9.0%	+ 18.0% (+ 0.2p)

連結の通期業績については、売上高は4,449億円、前期比15.9%増、経常利益は723億円、前期比23.4%増、当期純利益は400億円、前期比18.0%増です。

国内ユニクロ以外のグループ子会社については若干の修正はございますが、国内ユニクロの業績が好調なことから、連結数値として変更はしておりません。

## ワンゾーン

### この1年間のとりくみ

- ・ セントラルバイイングへの変更
- ・ 完全買取の実施
- ・ 店舗の外装リニューアル（店舗名「フットパーク」へ統一）
- ・ チラシの刷新

### 今後のとりくみ 品揃えの強化

- ・ 商品構成、プライベートブランドの見直し

### 店舗開発の強化

- ・ 不採算店舗の閉店
- ・ 新規出店の加速

ワンゾーンでの取組みについて、簡単にご説明させていただきます。

昨年3月の買収以来、この1年間、ユニクロで培ったノウハウを投入し、セントラルバイイングへの変更、完全買取の実施、店舗名を「フットパーク」へ統一するなどのリニューアルの実施、チラシの刷新など、さまざまな取組みを行ってまいりました。

しかし、この第3四半期では、これらの取組みの効果が十分に出ず、集客力を大幅に改善することができませんでした。下半期の売上高、利益につきましては、先ほどの業績予想でご説明したとおり、下方修正しております。

今後は、商品構成とプライベートブランド戦略の見直しによって品揃えを強化し、魅力的な売場へ変えていきたいと考えています。

また、店舗開発については、立地環境が悪化した赤字店舗を閉鎖する一方で、新規出店を加速させていく計画です。

新店については、3月に3店舗、4月・6月にそれぞれ1店舗と、これまでに5店舗をオープンしております。



## ワンゾーン 「フットパーク伊勢原店」

2006年3月10日OPEN 神奈川県伊勢原市



こちらのスライドが3月にオープンした神奈川県伊勢原市の新店の写真です。

従業の出店はおもにロードサイドが中心でしたが、この伊勢原店は、ネイバーフッド型のショッピングセンターに展開するはじめての店舗です。

店内では、マネキンを使ったVMDに工夫をこらすなど、売場演出でも新しいアプローチを採用しており、従来型の店舗に比べ、売上も順調に推移しております。

## FRフランスでの事業展開

### コントワー・デ・コトニエ事業

- ・ フランス国内では既存店増収基調を維持
- ・ ヨーロッパ諸国で出店を加速
- ・ CDCジャパンはフランスとの連携を強化

### プリンセス タム・タム

- ・ フランス国内での出店の強化
- ・ 直営店比率の増加

### ネルソン フィナンス 株式追加取得を前倒し

- ・ 6月末に実質100%子会社化

フランスでの今後の事業展開について、少しご説明いたします。

コントワー・デ・コトニエ事業は、フランスでひきつづき好調な業績を維持しておりますが、今後はスペイン、ベルギー、イタリア、ドイツ、英国などフランス以外のヨーロッパでの出店を加速させていく予定です。

CDCジャパンは、マーケティング戦略などにおいてフランスとの連携を強化し、日本市場でもブランドを確立するため、旗艦店オープンを予定しております。

プリンセス タム・タム事業は、現在の約100店舗に加え、フランス国内において、直営店を中心に出店を拡大していく予定です。

フランス事業の経営のスピード感をあげて成長を加速させるため、従来は2007年7月に予定していたネルソン フィナンス社の株式追加取得スケジュールを前倒しし、本年6月末までに、実質100%子会社化いたしました。

## コントワー・デ・コトニエ

COMPTOIR DES  
COTONNIERS

こちらは6月にパリで開催されたコントワー・デ・コトニエの今年の秋冬のファッションショーからの写真です。

パリジェンヌのコンテンポラリースタイルを提案し、現地メディアからも高い評価を受けました。

また今回のショーでは、はじめて、日本での一般公募において選出された「母と娘」のモデルが参加しました。

<ご参考> 2006年8月期 連結対象会社別出退店 第3四半期実績・通期予想 20

【単位:店】	05年8月 期末	06年2月 中間期末	2006年第3四半期						2006年8月 通期(予想)				
			3Q (06/3~5)			1Q~3Q (05/9~06/5)			期末	出店	退店	純増減	期末
			出店	退店	純増減	出店	退店	純増減					
<b>ユニクロ事業合計</b>	<b>693</b>	<b>728</b>	<b>39</b>	<b>20</b>	<b>+19</b>	<b>101</b>	<b>47</b>	<b>+54</b>	<b>747</b>	<b>110</b>	<b>52</b>	<b>+58</b>	<b>751</b>
国内ユニクロ事業:	679	701	34	20	+14	82	46	+36	715	90	48	+42	721
直営店 <sup>1</sup>	664	682	33	17	+16	77	43	+34	698	85	45	+40	704
除く、小型専門店	664	677	30	17	+13	69	43	+26	690	76	45	+31	695
小型専門店	-	5	3	0	+3	8	0	+8	8	9	0	+9	9
FC	15	19	1	3	2	5	3	+2	17	5	3	+2	17
海外ユニクロ事業:	14	27	5	0	+5	19	1	+18	32	20	4	+16	30
英国:	6	8	0	0	0	2	0	+2	8	2	0	+2	8
中国: <sup>2</sup>	8	9	0	0	0	2	1	+1	9	2	3	1	7
米国:	-	4	0	0	0	4	0	+4	4	5	1	+4	4
韓国:	-	5	5	0	+5	10	0	+10	10	10	0	+10	10
香港:	-	1	0	0	0	1	0	+1	1	1	0	+1	1
<b>ワンゾーン</b>	<b>329</b>	<b>326</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>+4</b>	<b>4</b>	<b>3</b>	<b>+1</b>	<b>330</b>	<b>5</b>	<b>4</b>	<b>+1</b>	<b>330</b>
<b>ネルソン フィナンス[フランス]</b>	<b>200</b>	<b>217</b>	<b>12</b>	<b>2</b>	<b>10</b>	<b>30</b>	<b>3</b>	<b>+27</b>	<b>227</b>	<b>38</b>	<b>0</b>	<b>+38</b>	<b>238</b>
<b>ナショナルスタンダード<sup>2</sup></b>	<b>10</b>	<b>10</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>1</b>	<b>1</b>	<b>0</b>	<b>10</b>	<b>1</b>	<b>11</b>	<b>10</b>	<b>0</b>
<b>コトワ・デ・コトエ ジャパン</b>	<b>-</b>	<b>1</b>	<b>4</b>	<b>0</b>	<b>+4</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>+5</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>0</b>	<b>+5</b>	<b>5</b>
<b>アスベジ・ジャパン</b>	<b>13</b>	<b>8</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>8</b>	<b>0</b>	<b>5</b>	<b>5</b>	<b>8</b>
<b>プティ ヴィクトル[フランス]<sup>2</sup></b>	<b>-</b>	<b>91</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>+3</b>	<b>4</b>	<b>1</b>	<b>+3</b>	<b>94</b>	<b>10</b>	<b>1</b>	<b>+9</b>	<b>100</b>
<b>総合計</b>	<b>1,245</b>	<b>1,381</b>	<b>63</b>	<b>23</b>	<b>40</b>	<b>145</b>	<b>60</b>	<b>85</b>	<b>1,421</b>	<b>169</b>	<b>73</b>	<b>+96</b>	<b>1,432</b>

<sup>1</sup> ユニクロ直営店の予想出退店数には、小型専門店(ウィメンズインナー専門店「BODY by UNIQLO」、キッズ専門店「ユニクロ キッズ」など)は含まれていません。

<sup>2</sup> 決算期が異なるため、2006年第3四半期期末のユニクロ中国事業及びプティ ヴィクトルの店舗数は3月末、ナショナルスタンダードは2月末となります。

最後に、ご参考として、第3四半期末の店舗数、2006年通期の出退店店舗数の予想の一覧表、および配当金の予想を添付しておりますのでご参照ください。

以上をもちまして、私のほうからのご説明を終わります。

ありがとうございました。

## 【配当金】

2006年8月期 通期配当金 130円を予定  
( 期末配当金 65円を予定)

年間配当性向(連結ベース) = 33.1%

	2005年8月期(実績)			2006年8月期(予定)		
		中間	期末		中間	期末 (予定)
1株配当金	130円	65円	65円	130円	65円	65円
配当性向(連結)	39.0%			33.1%		